

令和3年度 事業報告

令和4年6月

公益財団法人 高速道路調査会

目 次

【1】	概要	1
I	公益目的事業1	1
1	調査研究事業	1
(1)	調査研究	
(2)	研究助成	
2	情報提供事業	6
(1)	機関誌『高速道路と自動車』の発行	
(2)	「道路と交通論文賞」の表彰	
(3)	調査研究成果等の出版、研究報告書・関係資料の閲覧等	
(4)	講演会の開催	
(5)	研究発表会の開催	
(6)	海外道路情報の収集・提供	
(7)	国際道路機関との情報交換・交流	
II	公益目的事業2	12
	講習等事業	12
(1)	講習会の実施	
(2)	高速道路の点検診断に関する講習および資格付与	
(3)	海外道路調査団の派遣	
(4)	留学支援	
III	公益目的事業3	17
	展示会事業	17
(1)	展示会の開催	
(2)	新技術等のインターネットによる情報提供	
IV	公益目的事業4	19
	協力・支援事業	19
(1)	「防災エキスパート（高速道路サポーター）」への協力・支援	
(2)	高速道路における救急救命対策への協力・支援	
V	収益事業1	20
	調査研究事業	20
【2】	組織運営	22
1	会員	22
(1)	賛助会員	
(2)	フェロー会員	
2	評議員会、理事会	22
(1)	評議員会	
(2)	理事会	
(3)	評議員選定委員会	
(4)	その他	
3	業務執行体制、内部管理体制、情報管理	24
(1)	業務執行体制	
(2)	内部管理体制	
(3)	情報管理	

【1】概要

(公財) 高速道路調査会中期事業計画(2019～2023年度)および令和3年度事業計画書に基づいて実施した事業の経過と実績について報告する。今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で各事業を実施した結果、新型コロナウイルス発生前の活動レベルに回復することができた。

● 公益目的事業1

高速道路などの経済的、技術的諸課題に関する調査研究および研究助成ならびに事業活動から得られた有用な情報の提供、普及・啓発を通して科学技術の振興に寄与する事業(調査研究事業、情報提供事業)

● 公益目的事業2

高速道路の建設・管理・運営に携わる人材の能力開発、技術力向上に資する講習会などの実施、海外道路調査などの機会の提供ならびに高速道路の点検診断に関する講習および資格付与によって人材の育成を図る事業(講習等事業)

● 公益目的事業3

高速道路に関する新技術・新工法、新サービスなどの普及・活用促進を図る展示会の開催などを通して技術開発を促進し高速道路の適正な建設整備、管理保全に寄与する事業(展示会事業、新技術等のインターネットによる情報提供)

● 公益目的事業4

高速道路の安全性・信頼性・利便性の向上など社会に貢献する目的の事業(協力・支援事業)

● 収益事業1

受託契約による調査研究および協力・支援業務の実施(調査研究事業)

I 公益目的事業1

1 調査研究事業

学識経験者によって構成する「総合研究委員会」を設置し、総合的に調査研究活動の方針を審議した。この審議結果に基づき各研究部会(経済・経営研究部会、道路・交通工学研究部会、高速道路クオリティ研究部会)は、高速道路などに関する社会経済、技術や環境保全など具体的な研究テーマを設定し調査研究を行った。

● 総合研究委員会(杉山雅洋 委員長)

第1回：令和3年10月21日

第2回：令和4年3月30日

(1) 調査研究

各研究部会は、研究課題ごとに当該分野に精通する学識経験者と経験豊富な専門家などから構成する専門研究委員会を設け、調査研究を行った。

研究にあたっては、講習等事業と連携を図り研究成果を積極的に情報発信するほか、若手研究者などとの人的ネットワークの拡充を目指した。

● **経済・経営研究部会**（根本敏則 部会長）

高速道路整備による経済効果、有料道路制度、総合交通政策および道路事業の推進や枠組み、関連する法令などについて調査研究を行った。

第1回：令和3年10月15日

第2回：令和4年3月22日

◇ **高速道路の料金及び課金のあり方に関する調査研究委員会**（根本敏則 委員長）

今後の長期的視点から見た高速道路の料金および課金のあり方や、料率、AET（完全電子化料金徴収）を含めた課金方法などを、グローバルな視点から検討する。

今年度は、今までの委員会の中で検討し、整理・報告を行ってきた内容について取りまとめ、報告書を作成した。（平成30年度からの継続、令和3年度完了）

第1回：令和3年4月22日（最終）

◇ **将来の高速道路の交通需要予測に関する調査研究委員会**（原田 昇 委員長）

高速道路の交通需要を取り巻く条件は、昨今の人口動向や自動車保有台数・所有形態の変化、職業ドライバーの働き方改革等の社会情勢の変化、自動運転技術等の進展、新型コロナウイルスによる新しい生活様式の定着を起因とする今後の不透明な交通需要動向など変化の節目を迎えている。

他方、高速道路会社が算定する推計交通量は説明力や精度の高い推計手法を構築することが求められていることから、本委員会では交通推計手法について継続的な検証や改善を行うため必要な検討を行う。併せて、前述した高速道路を取り巻く条件に関し、推計手法への反映の考え方や高速道路会社のリスクの経営判断に資する手法を検討する。

今年度は、高速道路の利用に影響を与える社会情勢について調査検討および意見交換を実施した。（令和元年度からの継続）

第1回：令和3年5月24日

第2回：令和3年10月8日

第3回：令和4年3月16日

● **道路・交通工学研究部会**（藤野陽三 部会長）

高速道路の建設と維持管理の技術および交通安全対策について調査研究を行った。

第1回：令和3年10月5日

第2回：令和4年3月14日

◇ **高速道路の舗装技術史に関する調査研究委員会**（丸山暉彦 委員長）

高速道路の舗装技術は、一般道路の建設・維持管理にも広く活用されている。本研究は、高速道路の黎明期から最新技術に至るまでの舗装技術の変遷について取りまとめ、今後の維持管理に資する技術資料を作成し公表することにより、今後の舗装技術の維持・向上に貢献することを目的とする。併せて、若手技術者の技術力向上や技術の伝承を図る。

今年度は、委員会報告書を取りまとめるとともに、頒布に向けた原稿見直しおよび引用・転載の出典元確認等を行った。（平成27年度からの継続、令和3年度完了）

第1回：令和3年7月12日（最終）

◇ **高速道路における交通ビッグデータの活用に関する調査研究委員会**（兵藤哲朗 委員長）

昨今、情報通信技術の飛躍的な発展に伴い、さまざまな分野においてビッグデータの活用が

積極的に進められており、道路交通分野においても、車両やドライバーなどから得られるビッグデータ（以下「交通ビッグデータ」という）の活用や技術の検討が進められている。

本研究は、自動運転、第5世代移動通信システム（5G）、MaaS(Mobility as a Service)の普及等を見据え、リアルタイムで移動に関する大量のデータが容易かつ低遅延に取得可能となる環境下において、高速道路における中長期的展望について研究を行うものである。

今年度は、MaaS 業者、交通ビッグデータ取扱い事業者等先進事例に関するヒアリングを通じて、中長期的観点から高速道路事業との協働の可能性や利用者サービスとして高速道路で取り組むべき対策について検討するほか、プローブデータを活用した交通状態推定を行った。

（平成 29 年度からの継続）

第 1 回：令和 3 年 6 月 24 日

第 2 回：令和 4 年 3 月 24 日

◇ 高速道路における橋梁技術史に関する調査研究委員会（二羽淳一郎 委員長）

高速道路の維持管理を行う上で、管理対象となる道路構造物の成り立ちを知っておくことは、大変重要である。本研究は、高速道路会社が培ってきた橋梁技術の黎明期から最新技術に至るまでの変遷について、その背景と関連付けて取りまとめ、今後の橋梁技術の維持・向上に貢献することを目的とする。併せて、若手技術者の技術力向上や技術の伝承を図る。

今年度は、作成した目次構成案に沿って執筆作業を行った。（平成 30 年度からの継続）

第 1 回拡大幹事会：令和 3 年 4 月 26 日

第 1 回幹事会：令和 3 年 6 月 9 日

第 2 回幹事会：令和 3 年 10 月 12 日

第 1 回委員会：令和 3 年 10 月 20 日

第 3 回幹事会：令和 3 年 12 月 23 日

◇ 高速道路での居眠り運転防止対策の効果に関する調査研究委員会（倉内慎也 委員長）

平成 25 年度から平成 26 年度にかけて、「高速道路での居眠り運転防止に向けた効果的な対策に関する調査研究」（以下「先行研究」という）を実施し、実態把握、発生原因、対策（カフェイン摂取と短時間睡眠が効果的）、高速道路会社の広報面の取組みなどについて整理した。先行研究以降、高速道路会社では交通安全啓発や薄層舗装などの整備、大型駐車マス増設等ハード・ソフト両面の安全対策に取り組んでいる。また、運転サポート機能を搭載した車両の普及等車両側の進化もめざましい状況にある。一方、居眠り運転が想起される追突死亡事故も相変わらず発生している。このような背景を踏まえ、居眠り運転が想起される重大事故防止に向けた対策とその効果について、研究を行うものである。

今年度は、ドライビングシミュレータを活用した光刺激等の実験を行い覚醒度向上効果の検証を行った。（平成 30 年度からの継続）

第 1 回：令和 3 年 6 月 8 日

第 2 回：令和 3 年 9 月 22 日

● 高速道路クオリティ研究部会（内山久雄 部会長）

高速道路利用者へのサービス、道路機能、道路の高度活用、景観、環境および道路緑化の向上と啓発について調査研究を行った。

第 1 回：令和 3 年 9 月 29 日

第 2 回：令和 4 年 3 月 7 日

◇ **高速道路における緑の価値の定量的評価に関する調査研究委員会**（藤井英二郎 委員長）

二酸化炭素の吸収・固定や生物多様性の保全などに係わる緑の価値、安らぎや癒しに繋がる生理・生体反応、あるいは休憩施設における緑の空間がもつ経済的な価値などについて把握、評価することを目的とする。それらの成果はできるだけ分かりやすく、技術者だけでなく広く一般にアピールできるリーフレットなどに取りまとめることを目指す。

今年度は、今までの成果を報告書に取りまとめた。

（平成 28 年度からの継続、令和 3 年度完了）

◇ **高速道路の快適性向上に関する調査検討委員会**（内山久雄 委員長）

少子高齢化がより顕著となり経済成長の鈍化が見込まれ、老朽化するインフラが大きな社会的課題となる一方、自動車技術の革新的な進展がみられるなか、高速道路の機能を維持しつつ質を向上させる手法について多角的な視点から検討を進めている。

今年度は、地域の人々に喜ばれる休憩施設の条件整理を行い、委員会での審議を行った。また、委員会報告書を取りまとめた。（平成 26 年度からの継続、令和 3 年度完了）

第 1 回：令和 3 年 9 月 17 日（最終）

◇ **高速バスストップの今後のあり方に関する調査研究委員会**（田中伸治 委員長）

公共交通利用促進の観点から、交通結節点としての機能等、高速バスストップ（BS）のユーティリティー、ならびに高速 BS を取り巻く主体間連携の状況に着目した調査研究を進め、高速 BS の今後のあり方について調査研究することを目的とする。

今年度は、これまでに実施した高速 BS 利用者、バス事業者、旅行業界、自治体、MaaS 等事業者へのヒアリング結果、高速 BS の利便性向上策について報告書に取りまとめた。

（平成 29 年度からの継続、令和 3 年度完了）

(2) 研究助成

研究活動の活性化、若手研究者の育成および実務者による研究の奨励を目的として、高速道路などに関連する社会的・経済的・技術的な研究課題を公募し、応募の中から選定した研究について助成を行う。

今年度は、令和 3 年 3 月に助成決定し、4 月に助成金を支援した以下の 6 件の研究が行われた。

令和 3 年度 研究助成実施課題

研究課題	所属機関	代表者
地方高速道路整備の分散型国土形成効果に関する研究：既設および新規ネットワークの効果推計	京都大学大学院工学研究科 教授	藤井 聡 氏
砂利を部分的に固結したコンクリートの力学特性に基づく橋梁床版の砂利化機構に関する研究	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授	藤山 知加子 氏
プローブデータを利用した降雨下における高速道路の自動車の走行特性に関する研究	東京大学大学院工学系研究科 博士課程	服部 充宏 氏 (共同研究者： 大口 敬 教授)
トラス橋における横風による走行車両安全性に関する研究	東京理科大学土木工学科 助教	金 恵英 氏
交通地盤工学を応用した気候変動対応型舗装構造設計・性能評価法に関する研究	北海道大学大学院工学研究院 土木工学科 教授	石川 達也 氏
北海道におけるインバウンドの高速道路の利用流動と滞留都市に関する研究	北海道科学大学 工学部都市環境学科 教授	石田 眞二 氏

また、令和4年度の研究助成課題について以下の活動を行い、13件の応募の中から下表のとおり7件の助成課題を決定した。

- ・募集要領の審議（令和2年度成果の報告もあわせて実施）
 - 経済・経営研究部会…令和3年10月15日
 - 道路・交通工学研究部会…令和3年10月5日
 - 高速道路クオリティ研究部会…令和3年9月29日
- ・募集要領の決定 総合研究委員会…令和3年10月21日
- ・募集期間 令和3年11月15日～令和4年1月14日
- ・助成対象の審議
 - 経済・経営研究部会…令和4年3月22日
 - 道路・交通工学研究部会…令和4年3月14日
 - 高速道路クオリティ研究部会…令和4年3月7日
- ・助成対象の決定 総合研究委員会…令和4年3月30日

令和4年度 研究助成決定課題

研究課題	所属機関	代表者
インターチェンジや高速道路整備が地域経済にもたらす効果の計測	日本大学経済学部 計量経済学専攻 准教授	行武 憲史 氏
高速道路ネットワーク整備が大地震後のレジリエンスにおける経済回復速度を向上させる効果の研究	京都大学大学院工学研究科 教授	藤井 聡 氏
疲労き裂進展シミュレーションを援用した鋼橋の維持管理手法に関する研究	名古屋大学大学院 土木工学専攻 准教授	判治 剛 氏
鋼橋高力ボルト継手に対する IH 塗膜剥離の施工条件探索	大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻 准教授	廣畑 幹人 氏
床版取り替えに適した鋼-コンクリートずれ止め構造を用いた弾性合成桁に関する研究	日本大学理工学部 交通システム工学科 教授	谷口 望 氏
ドライバーの運転行動の異質性による追従挙動および車線変更行動の差異に関する研究	横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府 大学院生	池谷 風馬 氏 (共同研究者： 田中 伸治 教授)
高強度の降雨イベントに対応する新しい緑化基盤の開発に関する研究	東京農業大学 地域環境科学部 教授	橋 隆一 氏

2 情報提供事業

学識経験者や専門家によって構成する「情報提供事業委員会」および「編集委員会」を設置し、情報提供事業の基本方針や運営方法などを審議した。この審議結果に基づき、当法人で実施した調査研究の成果ならびに海外の高速道路を含む幅広い分野の各種情報などを広く社会に普及・活用されるよう当法人のウェブサイトや機関誌などを通して発信し提供した。また、インターネットを利用することで、高速道路の役割や必要性について効果的・効率的に情報提供できるよう当法人ウェブサイトの充実を図った。

なお、講演会や研究発表会などは、他機関の技術者継続教育（CPD：Continuing Professional Development）プログラムの制度を活用し、より多くの参加者を募るよう努めた。

- 情報提供事業委員会

令和4年2月3日

(1) 機関誌『高速道路と自動車』の発行

高速道路と自動車などに関する諸問題や技術課題について取りあげる『高速道路と自動車』を毎月1日に発行した。本誌の編集方針および掲載内容は「編集委員会」で、「技術レポート」欄に掲載する内容は「技術レポート委員会」で審議した。

今年度は、特集として5月号では「低炭素社会に向けて」、10月号では「安全対策（誤進入、逆走、高齢運転者）」、1月号では「高速道路料金」を企画した。

- 編集委員会

第1回：令和3年5月13日

第2回：令和3年7月21日

第3回：令和3年9月7日

第4回：令和3年11月12日

第5回：令和4年1月19日

第6回：令和4年3月11日

- 技術レポート委員会

第1回：令和3年4月9日

第2回：令和3年7月9日

第3回：令和3年10月11日

第4回：令和4年1月12日

(2) 「道路と交通論文賞」の表彰

道路と交通に係わる新進気鋭の研究者を育成し実務者による研究を奨励することを目的として、『高速道路と自動車』に投稿・掲載された研究論文を対象に「道路と交通論文賞」の表彰を行った。

選考は経済社会と技術の2部門に分けており、今年度は、経済社会部門の選考対象論文がなく、技術部門について学識経験者と経験豊富な専門家で構成する「道路と交通論文賞選考委員会」で審査・選考し授賞論文を決定した。

- 道路と交通論文賞選考委員会

経済社会部門：選考対象論文なし

技術部門：令和3年4月19日

論文賞の表彰式

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

表彰論文

[経済社会部門] 選考対象論文なし

[技術部門] 1編

凍結防止剤の変更による実橋梁の塩化物に起因した腐食抑制効果のさび組成に基づく評価 機関誌『高速道路と自動車』令和2年7月号掲載	
木下 幸治 氏 畑佐 陽祐 氏 蓮池 里菜 氏	岐阜大学工学部社会基盤工学科 准教授 株式会社興栄コンサルタント 琉球大学工学部附属地域創生研究センター特命助教 兼 岐阜大学 工学部社会基盤工学科特任助教 (掲載時)

(3) 調査研究成果等の出版、研究報告書・関係資料の閲覧等

調査研究成果および高速道路の社会的・経済的・技術的な諸課題に関する知識などの普及・活用の促進を図ることを目的に、各種出版物の販売や閲覧サービスを行った。

今年度は『道路保全工事等安全管理の手引き〔第4版〕』を令和3年12月に発刊した。

(4) 講演会の開催

国内外の高速道路などに関する知識の普及・啓発ならびに高速道路事業への理解促進を目的として、学識経験者・官公庁・高速道路事業者および民間企業の有識者などを講師に迎え講演会を開催した。

聴講者の利便性等に配慮し、昨年度に引き続き研究発表会との2日間連続開催を行った。なお、大阪会場は緊急事態宣言中であったことから集合型による開催を中止し、ウェブ配信により実施した。また、名古屋地区に対しては、大阪会場の発表内容をオンデマンド配信した。

第1回 大阪（ウェブ配信）

日 時	令和3年9月6日	
場 所	公益財団法人高速道路調査会 会議室	
聴講者数	52名	
プログラム	[演題]	[講 師]
	5Gのユースケースと技術概要、5Gの活用に向けたKDDIの取り組み	KDDI株式会社 技術統括本部 モバイル技術本部 次世代ネットワーク開発部 副部長 吉田 宗史 氏
プログラム	5Gを活用したセルラーV2Xとデジタルトランスフォーメーション～ソフトバンクの取り組み	ソフトバンク株式会社 先端技術開発本部 事業企画部 モビリティ企画課 担当課長 田島 裕輔 氏

第2回 東京

日 時	令和3年11月4日	
場 所	星陵会館ホール	
聴講者数	79名	
プログラム	[演題]	[講 師]
	高速道路におけるレベル3自動運転の実用化	一般社団法人日本自動車工業会 自動運転部会 部会長 波多野 邦道 氏
プログラム	公共交通事業におけるDX推進の取組	株式会社みちのりホールディングス ディレクター 浅井 康太 氏

(5) 研究発表会の開催

当法人の調査研究の活動と成果や助成対象とした研究などを広く一般に公表し、普及・活用の促進を図ることを目的として研究発表会を開催し、積極的に情報発信した。なお、大阪会場は、講演会と同様ウェブ配信により実施した。また、名古屋地区に対しては、大阪会場の発表内容をオンデマンド配信した。

大阪（ウェブ配信）

日 時	令和3年9月7日	
場 所	公益財団法人高速道路調査会 会議室	
聴講者数	37名	
プログラム	[研究助成対象発表] 大規模イベント時の都市道路網交通規制に関する有効性分析	[発表者] 関西大学 環境都市工学科 都市システム工学科 教授 秋山 孝正 氏
	アオハダ種子の形態生理的休眠と早期発芽に向けた休眠打破に関する研究	東京農業大学大学院 農学研究林学専攻 武井 理臣 氏
	注意の引きやすさに着目した視覚的な高速道路逆走防止対策の評価	秋田工業高等専門学校 准教授 長谷川 裕修 氏
	[研究発表] 高速道路の料金および課金のあり方に関する調査研究	[発表者] 研究第一部 主幹 迫田 貴幸
	高速道路における道路景観構成要素が走行時の快適性に与える影響	特任研究員 佐藤 将
	高速道路で培われた技術の歴史を伝承する取り組み～高速道路の舗装技術史～	研究第二部 主幹 永井 基博

東京

日 時	令和3年11月5日	
場 所	星陵会館ホール	
聴講者数	47名	
プログラム	[研究助成対象発表] 斜面崩壊規模の予測のための軽重量サウンディング試験機（LWCPT）の開発	[発表者] 岡山大学 名誉教授 西垣 誠 氏
	豪雨・出水時の河川橋脚基礎の洗掘・浸食メカニズムに関する研究	東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 准教授 渡邊 健治 氏
	[研究発表] 高速道路の料金および課金のあり方に関する調査研究	[発表者] 研究第一部 主幹 迫田 貴幸
	高速道路における道路景観構成要素が走行時の快適性に与える影響	特任研究員 佐藤 将
	高速道路で培われた技術の歴史を伝承する取り組み～高速道路の舗装技術史～	研究第二部 主幹 永井 基博

(6) 海外道路情報の収集・提供

海外の道路関係機関で発行している機関誌や公表している報告書・ウェブサイトなどから日本の高速道路事業に有益と考えられる情報や当法人で実施した調査研究活動の中で収集した海外の道路関連情報を当法人の機関誌やウェブサイトを通して広く一般に提供した。

○『高速道路と自動車』での情報提供

掲載コーナー	掲載内容	掲載月	備考
海外ニュース	道路事業全般、建設、維持管理、有料道路経営、料金、環境、情報提供、ITS、ETC、新技術・新工法等に関する話題	毎月（20件/月程度）	年度累計 251 件（令和 3 年 4 月号～令和 4 年 3 月号）
報告	第 114 回 REAAA 評議員会出席報告	令和 3 年 5 月号	ウェブ会議 R3. 3. 24
	海外留学報告～フランス HEC Paris 経営大学院 経営学修士課程（MBA コース）	令和 3 年 9 月号	
	第 16 回 REAAA 道路会議および第 115, 116 回 REAAA 評議員会出席報告	令和 3 年 11 月号	ウェブ会議 R3. 9. 13～15
	米国におけるインフラ投資雇用法（IIJA）の概要	令和 4 年 3 月号	
紹介	米国での完全電子化料金徴収システムの課題とその対応	令和 3 年 5 月号	
	欧州統一課金サービスの開始を契機とするポーランド ETC の更新	令和 4 年 1 月号	
	第 27 回 ITS 世界会議ハンブルク 2021	令和 4 年 2 月号	

○ウェブサイトでの情報提供

『欧米の高速道路政策 2021 年版』および『高速道路と自動車』令和 3 年 4 月号～令和 4 年 3 月号「海外ニュース」に掲載した記事をウェブサイト上で提供した。

(7) 国際道路機関との情報交換・交流

海外の高速道路における経済・技術に関する情報を収集することを目的として、道路関係の国際機関に加盟し、各機関が主催する国際会議への参加を通して、情報交換や人的な交流などを行った。

今年度は、WRA-PIARC、IRF、REAAA、TRB、EASTS-JAPAN、IBTTA に継続して加盟し、収集した有益な情報は、調査研究の基礎資料として利用するとともに、当法人の機関誌やウェブサイトなどを通じて広く一般に発信した。

また、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響から多くの国際会議が中止となったものの、オンライン会議形式で実施された REAAA 道路会議等に参加し、情報収集を行った。

<加盟団体>

機関名略称	機関名	本部
WRA-PIARC	World Road Association-Permanent International Association for Road Congress (世界道路協会)	フランス
IRF	International Road Federation (国際道路連盟)	アメリカ
REAAA	Road Engineering Association of Asia & Australasia (アジア・オーストラレーシア道路技術協会)	マレーシア
TRB	Transportation Research Board (交通運輸研究会議)	アメリカ
EASTS-Japan	Eastern Asia Society for Transportation Studies-Japan (アジア交通学会)	日本
IBTTA	International Bridge, Tunnel and Turnpike Association (国際有料道路協会)	アメリカ

II 公益目的事業 2

講習等事業

学識経験者や高速道路事業の専門家などにより構成する「講習等事業委員会」を設置し講習会の開催企画や海外道路調査団の派遣ならびに海外に留学する者への支援などを審議した。

講習会は、高速道路の建設・管理・運営に携わる人材の育成を効果的・効率的に進めるため、関係機関と調整しニーズを見極めるとともに、当法人の調査研究事業の蓄積や幅広い人的ネットワークなどの特徴を活かして企画・運営し継続的に充実を図った。

○ 講習等事業委員会

令和4年3月11日

(1) 講習会の実施

高速道路の建設と維持管理の業務に携わる技術者の技術力向上を目的とした「建設・管理技術向上に資するための講習会」や高速道路の保安全管理業務の安全性向上のための「保全安全管理に関する講習会」ならびに今後の有料道路制度・料金制度のあり方を内外に提案および発信できる人材の育成を目的とした「有料道路制度・料金制度に関する研修会」を継続して開催した。

今年度から異常気象および新型コロナウイルス感染症等による講習会開催に支障をきたすことが無いように、「高速道路の現場監理に関する講習会」をウェブ化して講習会を実施した。

① 建設・管理技術向上に資するための講習会

高速道路の建設・維持管理に携わる技術者の技術力向上を目的とした気象、防災、交通安全やA Iなどに関する専門性の高い講習会および電気・通信・機械など設備機器などに関する実務者向け講習会を9プログラム、20コース計画したが、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響から特に施設技術者実務講習会の中止が多く、7プログラム、13コースの開催となった。

7プログラム 13コース 受講者数 1,448名／募集者数 1,634名

(受講者数 R1:1,304名、R2:1,650名)

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数/ 募集者数
① 気象と雪氷対策講習会	開催中止	—	—
② 高速道路の交通安全に関する講習会	11月30日	東京都港区	20名／20名
③ 防災に関する講習会	令和4年1月17日	東京都港区	14名／20名
④ リスク管理に関する講習会	令和4年1月21日	東京都港区	21名／20名
⑤ AI講習会			
(初級編)	12月9日	東京都港区	15名／20名
(中級編)	12月10日	東京都港区	19名／20名
⑥ 実務者講習会			
土木技術者現場講習会	開催中止	—	—
道路トンネルの技術に関する講習会	12月13日	東京都港区	12名／20名
斜面防災に関する講習会	12月16日	東京都港区	19名／20名
⑦ 施設技術者実務講習会			
CCTV設備	開催中止	—	—
トンネル非常用設備	6月17～18日	埼玉県熊谷市	18名／19名
可変式道路情報板設備	開催中止	—	—
交通量計測設備	11月16～17日	大阪府大阪市	15名／15名
自家発電設備	12月21～22日	滋賀県長浜市	13名／20名
※9月7～10日延期開催	12月23～24日		15名／20名
ETC・フリーフロー設備	開催中止	—	—
受配電設備	7月7～8日	山口県岩国市	18名／20名
伝送設備	開催中止	—	—
⑧ 緑地点検講習会	開催中止	—	—
⑨ 高速道路の現場監理に関する講習会			
第1回 土木施設	10月13日～27日 (平日のみ)	ウェブ講習	759名／600名
			127名／200名
第2回 土木施設	令和4年2月14日～28日 (平日のみ)	ウェブ講習	320名／450名
			43名／150名

② 保全安全管理に関する講習会

高速道路上の交通規制を伴う作業を統括する立場の技術者として、作業の安全性および作業従事者の安全を確保するための知識の向上と、現場指導を行う上での能力向上を目的とした講習会を開催した。

1 プログラム 10 コース 受講者数 4,337 名／募集者数 3,800 名

(受講者数 R1:3,084 名、R2:1,920 名)

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数/ 募集者数
保全安全管理講習会			
夏期 東京①	6月21日	東京都港区	491名/500名
夏期 東京②	6月22日	東京都港区	516名/500名
夏期 仙台	6月25日	仙台市	318名/150名
夏期 大阪	6月29日	大阪市中央区	501名/400名
夏期 広島	7月13日	広島市	331名/150名
夏期 名古屋①	7月20日	名古屋市中区	233名/150名
夏期 名古屋②	7月21日	名古屋市中区	235名/150名
冬期 東京①	1月13日	東京都港区	511名/500名
冬期 東京②	1月14日	東京都港区	518名/500名
冬期 大阪	1月25日	大阪市北区	683名/800名

③ 有料道路制度・料金制度に関する研修会

有料道路制度・料金制度について、研修生と学識経験者および実務経験者とのディスカッションや当法人における調査研究事業で蓄積した知見を活用し、さまざまな観点から考察することにより、今後の有料道路制度・料金制度のあり方を内外に提案および発信できる人材の育成を目的とした研修会を開催した。

1 プログラム 1 コース

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数/募集者数
有料道路制度・料金制度に関する研修会	第1回 9月27日～28日	東京都港区	9名/10名
	第2回 10月28日～29日		
	第3回 11月15日～16日		
	第4回 12月6日～7日		
	第5回 1月18日～19日		
	第6回 2月17日～18日		
	第7回 3月15日～16日		

(2) 高速道路の点検診断に関する講習および資格付与

高速道路の安全性を高め、社会基盤の整備に寄与し、高速道路の点検診断技術者の育成と技術力向上を目的として、高速道路点検診断資格の講習会および資格試験を実施した。また、資格保有4年目および5年目となる者に対する更新講習会およびeラーニングによる更新試験を実施した。

なお、今年度から異常気象および新型コロナウイルス感染症等による講習会開催に支障をきたすことが無いように、講習会をウェブ化して実施した。

○高速道路点検診断資格委員会

第1回：令和3年5月18日

第2回：令和4年1月13日

- 資格試験 受験者数 3,031名 (土木1,460名、施設1,571名)
(受験者数 R1:2,588名、R2:中止)
- 更新講習 受験者数 1,810名 (土木960名、施設850名)
(受験者数 R1:382名、R2:中止)

○開催概要

区分	開催日	開催場所
資格試験講習会(土木・施設)	9月1日～22日	ウェブ開催
資格試験(土木・施設)	10月24日～25日	札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡
更新講習会(第1回)	9月28日～10月11日	ウェブ開催
更新試験(第1回)	10月15日～11月5日	ウェブ開催
更新講習会(第2回)	12月1日～12月14日	ウェブ開催
更新試験(第2回)	12月17日～令和4年1月14日	ウェブ開催

- 資格付与者数 1,424名
(土木) 診断士108名・点検士132名・点検士補413名
(施設) 診断士155名・点検士300名・点検士補316名
- 資格更新者数 1,549名
(土木) 診断士80名・点検士143名・点検士補627名
(施設) 診断士119名・点検士387名・点検士補193名

(3) 海外道路調査団の派遣

海外の高速道路に関する最新の話題や建設事業または維持・交通管理の現場および休憩施設等に着目し、現地における調査や意見交換を通して理解を深める機会を提供することを目的として海外道路調査団を派遣している。

今年度は、全世界で新型コロナウイルス感染症が蔓延し、収束の見通しが立たないことから、募集を中止した。

(4) 留学支援

人材育成の一環で、道路および道路交通に関する経済的・技術的な研究を目的とした海外留学希望者に助成支援をするもので、外部専門機関の語学力試験結果をもとに支援候補者を選定している。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、支援候補者が留学渡航できないことから、新規募集は中止した。ただし、これまでに留学支援候補者に決定した5名については、渡航を完了したことから支援金を支給した。

対象者の留学先および所属は以下のとおり。

募集年度	留学先学校等名	国	専攻	課程	助成者所属会社
第54回 H30	ロンドン大学シティ校	英国	経営学	修士	西日本高速道路株式会社
第55回 H31/R1	ランカスター大学	英国	経営学	修士	西日本高速道路株式会社
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校	米国	土木工学	修士	首都高速道路株式会社
	リバプール大学	英国	土木工学	修士	本州四国連絡高速道路株式会社
	スタンフォード大学	米国	土木環境工学	修士	西日本高速道路株式会社

Ⅲ 公益目的事業 3

展示会事業

高速道路事業の専門家により構成する「情報提供事業委員会」のもとに、「ハイウェイテクノフェア」の主催者および共催者からなる「ハイウェイテクノフェア実行委員会」を設置し開催方針や運営方法について審議した。

「ハイウェイテクノフェア」は、高速道路事業や高速道路を支える最先端技術を紹介し社会一般の理解を深めるとともに、技術開発に携わる企業などには情報交換あるいは広報の機会を提供して技術の普及促進を図ることを目的に開催した。

また、当法人ウェブサイト「新技術電子カタログ」に、賛助会員および展示会出展者から提供される技術情報を掲載し広く一般への情報提供を行った。

○ハイウェイテクノフェア実行委員会

第1回：令和3年9月9日

第2回：令和3年9月27日

第3回：令和4年2月18日

(1) 展示会の開催

「ハイウェイテクノフェア 2021」は、リアル展示に加え、新たにオンライン展示を導入したハイブリッド方式にて開催した。さらに、来場者の魅力度を高めるために、他機関の技術者継続教育（CPD）プログラムの制度を活用した。

展示会

展示会名	「ハイウェイテクノフェア 2021 - 高速道路を支える最先端技術」
会 期	「リアル展示」 令和3年10月6日（水）～ 7日（木） 「オンライン展示」 令和3年10月6日（水）～ 20日（水）
場 所	東京ビッグサイト 西3・4ホール、屋上展示場
主 催	公益財団法人高速道路調査会
共 催	東日本高速道路株式会社 中日本高速道路株式会社 西日本高速道路株式会社
後 援	国土交通省、公益社団法人土木学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人プレストレストコンクリート工学会、公益社団法人日本コンクリート工学会
出展者数	「リアル展示」 254 者 （R1：289 者） 「オンライン展示」 151 者
来場者数	「リアル展示」 11,769 名 （R1：23,656 名） 「オンライン展示」 45,637 アクセス

講演会

演 題	自動運転・運転支援に関する研究の現状と今後の展望
講 師	中野 公彦 氏 東京大学生産技術研究所 教授
日 時	令和3年10月7日（木） 13:30～15:00（90分）
聴講者数	296名（会場聴講 156名、オンライン聴講 140名）

(2) 新技術等のインターネットによる情報提供

技術情報収集の効率化、企業の技術開発支援や新技術などの普及促進を目的として、賛助会員および展示会出展者から提供された新技術・新工法・新製品に関する技術情報をデータベース化した「新技術電子カタログ」を当法人のウェブサイトで提供した。

新技術電子カタログ掲載内容の充実を図るため、展示会出展者への登録案内のほか既登録企業に対してカタログ情報の更新依頼を行い、情報の質と量の向上を図った。

(令和3年度末 登録技術数 197 製品、年間アクセス数 195,650 件)

IV 公益目的事業 4

協力・支援事業

高速道路上の災害などへの諸対策や高速道路事業における救急救命対策への協力・支援など、社会に貢献する事業を実施した。

(1) 「防災エキスパート（高速道路サポーター）」への協力・支援

高速道路などにおける大規模災害発生時の支援や平常時の点検・訓練・技術力の向上および技術伝承などについて、高速道路の建設・管理に従事した経験者のボランティアからなる「防災エキスパート（高速道路サポーター）」活動を支援した。

事務局本部を当法人に設置し全国各地に 10 支部を配置しており、令和 3 年度末の会員登録数は 604 名である。

今年度は、定期点検活動および全国各支部で開催された講演会などに延べ 293 名の会員が活動をした。

○防災エキスパート運営連絡会

令和 4 年 2 月 28 日

(2) 高速道路における救急救命対策への協力・支援

高速道路を利用するお客様や高速道路事業に携わるグループ社員等の方が一に備えることを目的として、高速道路事業に従事する者を対象に、AED（自動体外式除細動器）の扱い方や心疾病に関する知識を学ぶ「AED 実技講習会」を開催した。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、集合型講習とウェブ講習を併用して開催、60 分講習を収録した DVD を配布した。講習会は 138 回・135 拠点で実施し 1,190 名が参加、DVD 配布は 66 箇所であった。

V 収益事業 1

調査研究事業

高速道路などの社会的・経済的・技術的な諸課題の研究に関連して、当法人での活動実績や能力の優位性を活かし受託契約などによる調査研究を行った。

今年度を実施した受託契約による調査研究は、11件であった。

- ・ 高速道路の点検・保安全管理技術に関わる海外情報収集業務
海外の高速道路の点検および保安全管理の取組みを調査する業務
- ・ 高速道路アーカイブ事業運營業務
高速道路の料金・設計・施工等の歴史を振り返る上で貴重なオーラルヒストリーの記録や資料収集、整理を行う業務
- ・ 諸外国における高速道路事業の経営環境の動向に関する調査研究
諸外国の高速道路の整備状況、政策、関連法制度、財源、整備計画、実施方式等について、グローバルな観点から調査研究を行う業務
- ・ 次世代高速道路のあり方に関する資料作成業務
将来の高速道路求められる機能、サービス、交通マネジメント等について調査研究を行う業務
- ・ 高速道路における植物発生材の有効利用に関する検討業務
植栽管理から発生する植物発生材の有効利用について、社会情勢の変化や近年の技術動向等を踏まえ、今後のあり方について検討する業務
- ・ 高速道路の構造物に関する技術検討委員会運営に係る業務
高速道路会社の構造物に関する技術基準類に対する策定および改訂の委員会に係る運営および技術基準改訂案に対する審議を通じた方針案の策定を行う業務
- ・ 令和3年度交通安全啓発用コンテンツ作成業務
「車両制限令」に関する交通安全啓発用コンテンツを作成する業務
- ・ PAにおける外国人観光客対応調査検討業務
阪神高速道路管内の泉大津PAにおける外国人観光客に対する利用実績調査の分析から潜在的なニーズを検討し、休憩施設における外国人観光客の対応課題を抽出する業務
- ・ 令和3年度次世代高速道路のあり方に関する資料作成業務
将来の高速道路に求められる機能・サービス、交通マネジメント等について調査研究を行う業務
- ・ 令和2年度高速道路維持管理における中長期人員計画および点検技術調査業務
社会インフラの老朽化や少子高齢化等の進展を見据えた中長期人員計画及び点検の高度化・効率化に資する点検技術の情報収集、整理を行う業務

- ・令和2年度エンジニアリング関西中長期管理体制検討業務
社会インフラの老朽化や少子高齢化等の進展を見据えた中長期管理体制について検討を行う業務

【2】組織運営

1 会員

(1) 賛助会員

令和3年度末の賛助会員数は、法人会員360団体、個人会員13名で、賛助会費の合計は17,920万円であった。今年度中における賛助会員数の動向については、法人会員10団体の新規加入に対し、退会は法人会員10団体、個人会員1名、休会が法人会員1団体であった。

なお、ウェブサイトを活用して当法人の事業への理解や協力を得られるよう情報発信に努めた。

(2) フェロー会員

学識経験者等に対し、当法人の活動趣旨に賛同を得た方をフェロー会員として登録し、引き続き当法人の事業への参画・協力を得られるよう努めた。(令和3年度末時点 157名登録)

2 評議員会、理事会

令和2年度事業報告および決算、令和4年度事業計画書および収支予算書などについて、評議員会および理事会などを適宜開催した。

(1) 評議員会

第21回 評議員会(定時)

開催日	令和3年6月9日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席15名・欠席2名(決議に必要な出席評議員の数9名)
議事事項	(報告) 令和2年度事業報告
	(決議) 令和2年度決算の承認
	(決議) 監事の選任
	(報告) 理事会決定事項の報告

第22回 評議員会(臨時)

開催日	令和4年3月25日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席14名・欠席3名(決議に必要な出席評議員の数9名)
議事事項	(報告) 令和4年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類
	(報告) 理事会決定事項の報告

(2) 理事会

第 36 回 理事会(通常)

開催日	令和3年5月14日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席7名・欠席1名 監事2名 (決議に必要な出席理事の数5名)
議事事項	(決議) 令和2年度事業報告の承認 (決議) 令和2年度決算の承認 (決議) 規程の一部改正 (決議) 評議員候補者の推薦 (決議) 監事候補者の推薦 (決議) 第21回定時評議員会の招集の決定

第 37 回 理事会(決議の省略)

決議があったものとみなされた日	令和3年6月10日
決議があったものとみなされた事項	(決議) 名誉会長の委嘱

第 38 回 理事会(臨時)

開催日	令和3年10月22日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席6名・欠席1名 監事2名 (決議に必要な出席理事の数5名)
議事事項	(報告) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告 (決議) 評議員候補者の推薦

第 39 回 理事会(通常)

開催日	令和4年3月4日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席7名・欠席1名 監事2名 (決議に必要な出席理事の数5名)
議事事項	(報告) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告 (決議) 令和4年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類 (決議) 規程の一部改正 (決議) 第22回臨時評議員会の招集の決定

(3) 評議員選定委員会

第 13 回 評議員選定委員会

開催日	令和3年5月24日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席委員6名(うち外部委員3名) (決議に必要な出席委員の数4名(うち外部委員2名以上))
議事事項	評議員の選任

第 14 回 評議員選定委員会

開催日	令和3年11月11日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席委員6名(うち外部委員3名) (決議に必要な出席委員の数4名(うち外部委員2名以上))
議事事項	評議員の選任

(4) その他

監事監査 および 第24回 監事意見交換会

開催日	令和3年4月27日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事2名 公益財団法人高速道路調査会 役職員6名
議事事項	令和2年度監事監査 第36回理事会議案説明

第25回 監事意見交換会

開催日	令和3年10月12日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事2名 公益財団法人高速道路調査会 役職員5名
議事事項	第38回理事会議案説明

第26回 監事意見交換会

開催日	令和4年2月25日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事2名 公益財団法人高速道路調査会 役職員5名
議事事項	第39回理事会議案説明

3 業務執行体制、内部管理体制、情報管理

(1) 業務執行体制

事業規模、事業内容に則して適切な組織・人員を配置するよう計画するとともに、事業執行状況を見極めた上で、必要に応じて人員配置の見直しを適宜行った。

(令和3年度末時点 事務局総数24人)

(2) 内部管理体制

当法人のガバナンス・コンプライアンス・ディスクロージャーの指針に基づき整備した内部規則の遵守を継続し、社会規範に従い誠実な業務の執行に努めた。

- ・短時間勤務職員に関する達の制定（令和4年4月1日適用）
- ・副業・兼業の取扱に関する達の制定（令和4年4月1日適用）

(3) 情報管理

当法人が保有する情報資産のシステム管理を強固にするため、各種対策を講じた。

- ・情報管理体制の整備
専門知識を有した職員の配置
- ・システムセキュリティの強化
コンピューターウイルス対策ソフト、修正プログラム等適用の徹底
リモートアクセスのセキュリティ強化